

ニューヨーク市民を変えたもの

新型コロナウイルスの感染防止対策で、あらゆる行事が中止となり、学校生活最後の夏のスポーツ大会なども例外ではなく、涙を飲んだ子どもたち。本当に切ない。市の中学生海外派遣事業も夏の実施を延期せざるを得なくなっています。

昨秋私は、派遣先に変更できるか判断し、変更になった場合にお世話になる人たちにあいさつやお願いをするために渡米しました。世界の中心ともいわれるニューヨークは、驚きの連続でした。移民・独立の米国史、超人種国家。ここを訪れる中学生は、かつての戦争も、世界を震撼とさせた2001年の米国同時多発テロ事件のことも教科書で習う世代。あの日、映画のシーンのように2機目の旅客機が世界貿易センタービルに突っ込む映像をテレビの生中継で見て、「これから世界はどうなってしまうのか」と身震いしたことを覚えています。しかし、世界がテロに恐怖している中でも、翌年にはFIFAワールドカップが日韓共同で開催されたことに、人の世の遅し

さを感じました。来年のオリンピックもこうありたいが、最たるはニューヨーク市民だったのだと、この渡米で知ることに。ショックに苛まれながらも焼け残った鉄筋の柱に掲げた星条旗と市旗を仰ぎつつ、不眠不休で復興を成し遂げたのだと。2,700人以上が亡くなったその跡地は「グラウンド・ゼロ」と名付けられた鎮魂の場となり、ここを訪れる人びとの足は途絶えない。我が国の原爆ドーム・平和祈念館と同じ空気がそこにありました。先入観を恥ずかしく思ったほどの街の美しさと治安の良さ。現地の人から聞いた「この街はあのテロから変わった」という言葉。将来を生きる若い彼らが感じることはどれほどでしょう。ニューヨークを選定したきっかけは「連れてきなさい、ぜひ中学生を」と熱を込めて提案された当市出身の大坪賢次ニューヨーク新潟県人会長との出会いにあります。現地でご支援いただく会長をはじめ、知己を得た多くの在米のみなさんは幸いにもご無事とのこと。終息成って、早くかわいい子どもたちに旅をさせたい。

国際大学留学生 お国自慢コーナー ~ boast of my country ~

シリーズ
第86回

タイ王国 ワンナヴィジット コムウイシさん

私の国はこんなところ

タイは「笑顔の国」として知られています。一般的にタイの人びとは穏やかで、外国人を含むすべての人に優しいからです。

タイは熱帯地域にあるため1年中暖かく、冬でも美しい白い砂浜を楽しむことができ、外国人からも人気の国です。また、タイ料理といえば辛い料理で有名です。有名な伝統料理「トム・ヤム・クン」は、唐辛子、香りづけのハーブ、エビを使った辛いスープです。これらを求めて、毎年、約4千万人の観光客がタイを訪れます。



タイ王国

[公用語]	タイ語
[首都]	バンコク都
[面積]	513,120km ² (50位)
[人口]	68,863,514人 (20位)
[GDP(PPP)]	1兆2363億ドル(20位)
[通貨]	バーツ (THB)

※GDPは国内総生産のことで、購買力平価説(PPP)により算出した数値です

南魚沼市に住んで感じたこと

美しい自然とおいしい空気やお米を満喫できる南魚沼が大好きです。特にお米は、米の生産が盛んなタイとの共通点を感じました。世界でも有名なタイ独自の米の品種「ジャスミン米」は、コシヒカリに比べて長くしっかりしています。炊き上がりには花に似た香りがして、カレーによく合います。一方でコシヒカリは柔らかく滑らかで、日本食、特にすしのおいしさを最大限に引き出します。日本一の米の品種であるコシヒカリは、私の南魚沼での生活をより豊かで幸せにします。